

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（国 語）

東京都北区立滝野川もみじ小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	<ul style="list-style-type: none"> ひらがなの定着率は約80%です。長音・促音・撥音・助詞(は、へ、を)の習得には個人差があります。 音読は、はっきりと大きな声で読むことを意識して取り組んでいます。 自分の考えを話すことは積極的にできますが、相手の話を聞くことが苦手な児童がいます。 	<ul style="list-style-type: none"> 苦手なひらがなとその文字絵を使った言葉を繰り返し練習して覚え、100%の定着をめざします。 長音・促音・撥音・助詞を文の中で正しく使うことができるように文を作る機会を作ります。 聞く力を付けるために本の読み聞かせを行ったり、対話の活動を多く取り入れ、集中して話を聞く時間を作ります。 	<ul style="list-style-type: none"> ひらがなは一文字ずつ、カタカナは5文字ずつのプリントを家庭学習に取り入れ、さらに習熟が心配な児童には休み時間や放課後に個別に学習する時間を設けます。 音読カードを活用し、得意な児童には暗唱にも挑戦させ、苦手な児童にはゆっくりでも正しく読む経験を重ねさせます。 モジュールの時間に、学習用パソコンで「は、へ、を」の復習などをさせます。
2年	<ul style="list-style-type: none"> 学力テストの結果から、1年生の漢字は身に付いていることが分かりました。 2年生の漢字は、100点が取れるまで小テストを繰り返し行って定着を図りましたが、2割程度の児童は100%に達していません。 語と語や文と文との続き方に注意しながら文章を書く力に課題があります。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字小テストを継続し、反復練習を行います。必ずテスト直しをさせ、同じ間違いを繰り返さないようにさせます。 説明文を読み取る力がつくように、指示語や接続詞に線を引いて読むように読み方のきまりを指導します。 文章を書くときには何をどのように書くのかについて明確にして書き方の指導を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日、漢字や主語述語を意識した文作りをさせます。漢字を使った短文作りをさせて、書くことに慣れさせます。 毎日漢字10問テストを実施します。プレテスト等で同じ問題を連続して取り組みせ、確実に覚えさせます。 話をじっくり聞く力がつくように、週に1回以上、授業の中で友達の話の聞いて質問する学習を設定します。
3年	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の習熟度を高めるために、9割の合格点を定めて繰り返し取り組んできましたが、15%の児童が到達していません。 「書くこと」では目的に合わせて文章を書くことや情報を集めてまとめることが苦手な児童が多いです。何を書くべきかが理解できていない児童が多数います。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の習熟度を図るために、引き続き9割の合格点を定めて繰り返し取り組むと同時に、小テストを授業開始1～2分間、3問程度行い、より確かな定着を目指していきます。 「書くこと」では文章を読んで、見出しを付けるような「要約する」学習を取り入れ、楽しさを味わいながら文を書く能力を高めていく指導をしていきます。 	<ul style="list-style-type: none"> 新出漢字が出题される小テストだけではなく、既習の漢字の定着を図るものも適宜行います。 2～3つの段落を字数を定めて要約する学習や教師が選んだ簡単に読みやすい新聞記事を読み感想を書き表す学習を取り入れていきます。 図書の時間に本をじっくり読む習慣や内容を正しく読めるようにします。 豊かな表現ができるようにするために、国語辞典で調べることや感情の表し方をいろいろと考える学習を取り入れていきます。
4年	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の学習に関しては興味関心をもたせながら、定着を図ることができました。 「書くこと」に関して抵抗があり、詳しく自分の思いを書いたり、考えをまとめたりすることに大きな課題があります。 「読むこと」に関しても、最後まで正確に読めていないことが課題です。 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の学習の中から自分の思いや考えを書くことに慣れさせていく必要があります。どんなことをどのように書いたらよいかを例を示してから書くようにします。 文章の構成や接続詞、指示語に着目して読み取ることを指導します。 	<ul style="list-style-type: none"> モジュールの時間を活用して、教師が選んだ簡単に読みやすい新聞記事を全体で読み、それに対しての自分の考えを書く活動を取り入れます。 音読の宿題を毎日出したり、図書館司書と連携し、ブックトークなどを行い、読書の幅を広げ、本をじっくり読む力正しく読み取る力をつけていきます。 朝自習の時間で、接続詞や指示語等の語句についての問題に取り組みさせます。 家庭学習で1日に2字、1字につき漢字練習帳1ページずつ取り組みさせます。
5年	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の習熟に関しては、小テストを使って補足練習を行ってきましたが2割の児童は十分な結果が得られませんでした。 説明文の読み取りに関しては、文章構成の理解を中心に内容の把握に時間をかけて指導しました。物語では、登場人物の関わりや構成、心情の変化について指導を行ってきましたが、自力で読み解くところまで達していません。 	<ul style="list-style-type: none"> 週に2～3回、漢字小テストを行います。漢字テスト直前にも、たしかめ時間を設け、十分習得できるようにします。 接続語、指示語、文末表現に注意をさせます。また、要約をする、見出しをつける活動等を取り入れ、読み取る力を伸ばします。 作文指導では、教材文の優れた構成を学ばせると共に、構成を指定して短作文を書かせる活動などを授業に取り入れて、「書く」活動に慣れさせます。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字に対する興味を高めるために、つくりやへんに着目した漢字の書き取りなど学習方法を工夫させます。 朝学習や家庭学習では、学習用パソコンを活用し漢字の繰り返し練習に取り組みさせます。 教師が選んだ新聞記事を読み、要約したり、感想を書いたりする学習を取り入れます。 常に手元にマイブックを置き、読書タイムや学習の隙間時間など本を読む機会を増やし、一人で静かにじっくりと読む習慣をつけ、自力で読み取る力を伸ばします。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の学習では、毎週、小テストを行い、児童全員が漢字を確実に覚えるよう指導していますが、定着が十分でない児童が見られます。 「物語の内容を読み取る」学習では、登場人物の心情の変化を中心に、「説明文の内容を読み取る」学習では、文章構成の理解を中心に学習に取り組ませましたが、読む能力が全体的に低い傾向にあります。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の学習では、児童全員がまとめテストで9割以上の漢字を書けることを目指し、不合格者は再テストに取り組みさせます。 「物語の内容を読み取る」学習・「説明文の内容を読み取る」学習では、指導時数を増やすとともに、児童の考えとその根拠を明らかにさせて、児童が自分の考えを説明し合う活動を充実させ、読む能力の向上を図ります。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字に対する興味を高めるために、つくりやへんに着目した漢字の書き取りなど学習方法を工夫させます。また、朝学習では、学習用パソコンのソフトを活用して、苦手分野である「漢字を読む」学習に取り組みせ、基礎的な知識・技能の定着を図ります。 常に手元にマイブックを置き、読書タイムや学習の隙間時間など本を読む機会を増やし、一人で静かにじっくりと読む習慣をつけ、自力で読み取る力を伸ばします。 テーマに即して児童が選んだ新聞記事を読んで要約する学習を取り入れていきます。

[様式3]

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（社会）

東京都北区立滝野川もみじ小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	<ul style="list-style-type: none"> ワークテストの結果から地図記号の学習に意欲的に取り組んでいた一方、区の地形、交通について資料を読み取って考える問題で誤答が目立っていました。 	<ul style="list-style-type: none"> 地図や写真、グラフから読み取れることを話し合ったり、書き表したりする学習や自分の意見や願いを表現することを適宜取り入れながら授業をしていく必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの生活について表現すること(社会科新聞を書くこと、買い物調べや自分が使っている工業製品の数を表やグラフ等で表すこと)などを行い、社会的事象と自分の生活との関わりが深められる学習を行います。
4年	<ul style="list-style-type: none"> 意欲は高いが、単元を通して、持続するのが難しいです。 昨年度は、コロナウィルス感染症の流行のため、工場やスーパーの見学ができず、動画や画像を通して、学習を行いました。そのため、実感を得た知識にはつながっていません。資料の読み取りは、未だ不十分です。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料を活用した学習を多く取り入れ、資料の読み取り方を理解、習熟させます。 実際に見学できない学習に関しては動画を活用します。 意欲的に課題に取り組めるよう、児童主体で問題作りをし、資料活用しやすい場を設けます。 	<ul style="list-style-type: none"> 他教科や総合的な学習の時間などの学習に関連させて、資料を活用する能力を伸ばします。 都道府県に関しての知識を定着させるため、国語の漢字学習と関連させ、各地を取り上げ、少しずつ覚えられるように、授業の初めの5分間に指導したり、小テストを行ったりします。 家庭学習で、各都道府県について調べ、ノートにまとめさせます。
5年	<ul style="list-style-type: none"> 教科書や資料集を使った授業と、単元の終わりに学習した内容を自分でわかりやすく新聞形式のワークシートやノートにまとめさせる方法を取り入れました。意欲や資質能力に個人差があり、同じ学習内容でも習得事項に差が出て、調べる情報量やまとめの内容には大きな差が表れています。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の興味・関心を高めるために、課題づくりや資料の開発・提示方法などを工夫し、学習がより深まり定着するようにします。 表やグラフ、写真や動画などから読み取ったことをお互いに交流し合うことで、友達のよい読み取りを参考にし、知識・技能の定着を図ります。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料から読み取るべき最低限度の情報について、しっかりと押さえながら授業を進め、知識・技能の定着を図っていきます。 教科書の単元から発展した内容の写真やグラフ、図表、動画などを提示することで、興味・関心を高めます。 期間を決めて授業ははじめの5分間を確保し、県名・県庁所在地名や日本の周りの国の名前、世界の大陸・海洋の名前を正確に書けるように取り組ませます。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 教科書や資料集を活用した調べ学習を中心として、単元の終わりには学習した内容を自分で分かやすくノートにまとめさせる学習を取り入れています。基礎的な知識・技能の定着が十分でない児童が見られます。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題づくりや資料の開発・提示方法などを工夫し、学習がより深まり定着するようになり、学習のまとめを児童自身の言葉でノートに書かせたりすることで、知識・技能の定着を図ります。 学習のまとめとして、動画を視聴させることで、表面的な理解にとどまらず、確実に知識・技能の定着を図ります。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習では、学習用パソコンのソフトを活用して、苦手分野である「工業生産」領域・「産業と情報の関わり」領域に取り組ませ、基礎的な知識・技能の定着を図ります。 期間を決めて授業ははじめの5分間を確保し、歴史人物や地理の国名等を正確に書けるように取り組ませます。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（算 数）

東京都北区立滝野川もみじ小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	<ul style="list-style-type: none"> 手指や具体物を操作しないと、たし算・ひき算(繰り上がり・繰り下がりがなし)を正しく計算できない児童が約40%います。 文章問題を正しく読み取ることができず、演算決定をし、立式できない児童が約40%います。 	<ul style="list-style-type: none"> 10の合成・分解の歌を毎日唱えることで「2と8で10」「6と4で10」などの確実な定着を図ります。 算数タイムや合間の時間に計算カードをしたり、たし算・ひき算ビンゴをしたりして、計算力を付けます。 文章問題は、キーワードになる言葉(あわせて、ちがいは)に着目させて考えるようにさせます。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中ではまず、算数ブロックなどの具体物を操作させ、「たす」「ひく」を手でも目でも実感させます。演算決定をする際のキーワードについて色分けして板書し、ヒントとなるようにします。 日常的に計算カードや学習用パソコンを使い反復練習をさせます。 家庭学習で計算問題やミニ文章問題に取り組むようにさせ、理解を定着させます。
2年	<ul style="list-style-type: none"> 繰り下がりのある引き算になると正答率が下がる。数の概念を理解させる必要があります。 「長さ・水のかさ」は、実感を伴った理解が不十分です。 文章問題を理解し、適切な立式が考えられるように指導していく必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な足し算や引き算の計算問題に繰り返し取り組み、確実に定着させます。 授業で具体物を用いて操作するなどの活動を取り入れ、問題の場面を具体的にイメージできるようにするとともに、算数タイムで繰り返し取り組みます。 問題文を読んで、「分かっていること」と「求めること」に線を引いてから取り組むことを習慣化し、問題把握力を身に付けさせます。 	<ul style="list-style-type: none"> 月に2回以上、算数タイムで学習用パソコンを使い、基礎問題の反復練習をさせます。 練習問題を解く際に、習熟度の高い児童には追加で発展的な問題を準備しておき、取り組みさせます。 ケアレスミスをしないように、見直しの習慣をつけさせます。 かけ算九九を全員に習得させるため、九九検定を実施します。
3年	<ul style="list-style-type: none"> 繰り下がりのある引き算やあまりのあるわり算のように、複雑な操作を伴う計算が十分定着していません。繰り返し練習をする時間を確保する必要があります。 自分の考えを言葉や式に表現することが苦手な児童が多いので、考えを表現する活動を授業に取り入れます。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数タイムや宿題などを活用して、繰り下がりのある引き算やあまりのあるわり算の練習を繰り返し行います。 授業内で自力解決の時間を多く取ったり、他の児童の考えを説明させたりします。「まず」「次に」という分かりやすく考え方を伝えることのよさを身に付けさせる指導を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> 計算の確認テストを行い、合格するまで何度も取り組みさせます。 自分の考えが書けない児童には、他の児童の考えをノートに書かせることを通して、徐々に慣れさせていきます。課題が早く終わった児童には、別の考え方で課題に取り組みさせます。 学習用パソコンで東京ベーシックドリルの問題に取り組ませていきます。
4年	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な計算問題は、繰り返し指導を行うことで定着が見られましたが、応用問題になると、正答率が低かったです。 問題の意図を適切に理解し、解き方をきちんと考える習慣を身に付けさせていきます。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎問題だけでなく、習熟度に応じて応用問題を取り入れていきます。 算数タイムで苦手な内容を中心に繰り返し練習問題に取り組みます。 文章題の読み取りの際には、クラス全体で「分かっていること」「求めること」を確認(下線を引く)してから自力解決に取り組みさせます。発表の際には、それぞれの考えを確認し合わせます。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別クラスの実態に応じて、計画的に指導計画を組み直したり、基礎的または発展的問題に取り組んだりします。また、下位層のクラスではヒントカード等を活用していきます。 分度器、三角定規・コンパスの使い方慣れるように練習に取り組みさせます。 算数タイムで九九や、九九の逆算であるわり算が、スムーズにできるように、学習用パソコンや東京ベーシックドリル等の練習問題に取り組ませます。
5年	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別学習のクラスごとに、興味をもって取り組むことができるように工夫を行っています。習熟度が高いクラスでは、自分の考えを説明し合う活動を行い、基礎的な知識を習得するクラスでは、具体物を用いて授業を行っていますが、基礎・基本の習得が十分ではありません。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別学習のクラスを工夫して編成し、児童同士で教え合いができるようにします。 復習問題を授業の最初か最後に取り組み、繰り返し問題練習できるようにします。 具体物、半具体物を用いたり、ペア学習などを取り入れたりと、下位層のボトムアップを図っていきます。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数タイムでは、児童が興味をもって取り組めるよう、東京ベーシックドリルや学習用パソコン等、様々な学習方法を活用し、学習した内容の基礎的な問題や発展的な問題を行います。 コンパス、分度器などの使い方などを確認し、「図形」領域の基礎的な知識・技能の定着を図ります。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 「図形」領域である「面積」や「体積」の学習では、習熟度別学習のコースに応じた授業を行いました。面積や体積を求める公式の理解や図形の辺や角の特徴など、基礎的な知識・技能の定着が十分でない児童が見られます。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎回の授業の中において、児童が自分の考えを説明し合う活動を取り入れたりと、学習のまとめを児童自身の言葉でノートに書かせたりします。 練習問題に取り組む時間を十分に確保することで、知識・技能の定着を図ります。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数タイムでは、東京ベーシックドリルや学習用パソコンのソフトを活用して、苦手分野である「図形」領域・「数と計算」領域に取り組ませ、基礎的な知識・技能の定着を図ります。

[様式3]

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（理 科）

東京都北区立滝野川もみじ小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	<ul style="list-style-type: none"> 身近な植物や昆虫に興味関心が高く、意欲的に飼育や観察をすることができました。 風やゴムのはたらきの学習では、実験を通して気付いたことや疑問を共有し、自ら課題づくりをすることができました。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の流れを統一し、3年生から取り組んでいきます。 植物や昆虫を観察するときの視点を「い(色)・か(形)・お(大きさ)・さ(触った感じ)・き(聞いてみて)・気付いたこと・に(臭い)」とまとめて、それらに注意しながら観察させるようにします。 自ら作った課題を解決させるために、実験結果から考察させる発問を工夫します。 	<ul style="list-style-type: none"> ノートに結果をまとめるとともに、まとめのプリントなどを活用して、知識の定着を図ります。 観察や実験の際に学習用パソコンを活用し、記録を残す習慣を身に付けさせます。
4年	<ul style="list-style-type: none"> 意欲は高く、実験や観察にも意欲的に取り組むことができます。しかし、実験の活動自体を楽しんでおり、進めるうちに「何のために、何を調べているのか」を見失っていることが多いです。 問題を常に意識しながら考察まで進めていく必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の流れを統一して行います。 植物を実際に観察するだけでなく、ICT教材も活用し、知識として共有させます。 実験の際には、問題作りを子供たちが主体となって行い、根拠のある予想を立ててから実験に取り組ませるようにします。 実験は実際に自分たちの手で行わせ、実験後の考察は自分の言葉で書けるようにします。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習用パソコンや練習プリント等で、知識として定着を図っていきます。 観察や実験に困っている児童には、観察や実験の手立てや、観察や実験の際の視点を確認させます。 教科書を使って、温度計や検流計等、実験や観察器具の使い方について、正しく理解させます。
5年	<ul style="list-style-type: none"> 実験前には自分たちの生活経験から、問題を立て、予想とその予想を立てた理由を考えさせてから、実験を行いました。 実験結果から、論理的に自分の考えを表現することには課題があります。 	<ul style="list-style-type: none"> なぜこのような実験を行うのか、問題作りの話合いに重点を置き、予想を立て、実験前に確認しながら、結果をもとに自分の考えをノートに書くようにさせます。 グループで自分の考えを交流し合い、友達のよいところを取り入れ、実験結果から考えられることを文章でまとめられるようにします。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度を高めるために、単元終了後は確認問題やプリント、学習用パソコンソフトに繰り返し取り組ませます。 確認問題に取り組めない児童には、個別に声をかけ、実際の実験を思いだせるようにし、取り組ませます。 理科で用いる基本的な用語や器具(顕微鏡、メスシリンダー等)の名称や使い方など、基礎的な知識・技能を動画や確認プリント等を活用し、定着させます。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 学習意欲は高く、実験や観察には意欲的に取り組むことができます。しかし、一般常識の範囲における結果を既に知っているため、予想・根拠を考えることに消極的な児童が多いです。 「流れる水の働き」「植物の花のつくりと実」「電流の働き」が、児童の苦手分野となっています。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元の始まりに、既習事項を思い起こさせ、それを本時の学習内容に結び付けながら学習問題を作らせます。 実験や観察を行った後に、その実験や観察に関わる動画を視聴させることで、表面的な理解にとどまらず、確実に知識・技能の定着を図ります。 毎回の授業において、学習の流れに沿って学習を展開することで、探究的な学習となるようにします。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習では、学習用パソコンのソフトを活用して、苦手分野である「流れる水の働き」「植物の花のつくりと実」「電流の働き」に取り組ませます。 確認問題に取り組めない児童には、個別に声をかけ、実際の実験を思い出させるようにし、取り組ませます。 理科で用いる基本的な用語や器具の名称、使い方等(特に「てこ」の学習)について、基礎的な知識・技能を動画や確認プリント等を活用し、定着させます。